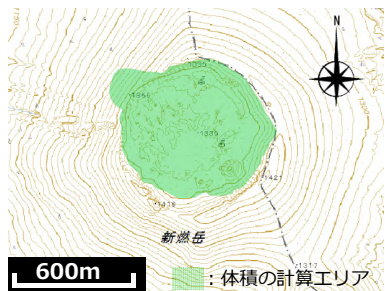


航空機SARデータによる霧島山（新燃岳）の地形変化解析

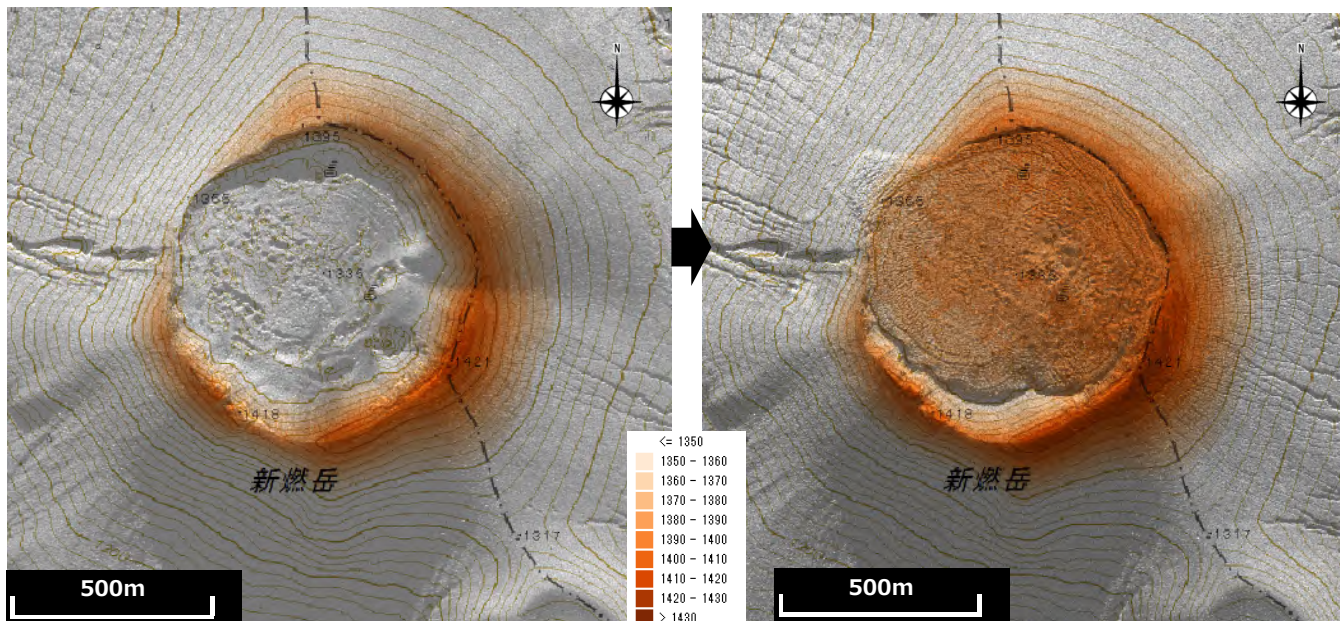
測量用航空機くにかぜⅢに搭載した航空機SARによる、新燃岳火口周辺の2時点（平成30年3月27日・平成29年10月12日）の観測データからDSM※を作成し、体積の変化を見積もりました。

※ SARの特性上、地形の形状によりレーダーが照射されない箇所が生じるため、DSMが作成できていない場合や精度が低いエリアがあります。

【体積の変化】



- ✓ 2時点（平成29年10月12日・平成30年3月27日）のDSMの差から見積もった体積計算エリアの変化は約1,600万 m^3 の増加です。増加した体積は、東京ドーム約13個分の容積に相当します。なお、体積計算の誤差は±100万 m^3 程度と見積もれます。



平成29年10月12日時点のSAR画像を重ねた段彩図

平成30年3月27日時点のSAR画像を重ねた段彩図

（段彩図）

- ✓ 段彩図は、火口縁の最低標高地点（最新地形図上で1,355m）を考慮し、標高1,350mから1,430mまでを10m間隔の段彩で表現しています。
- ✓ 噴出した溶岩により火口全体の標高が高くなっていることがわかります。